

1. 科目名 (単位数)	公認心理師の職責 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3356
2. 授業担当教員	岩月 敦		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>公認心理師とは、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者をいいます。</p> <p>(1) 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析  (2) 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助  (3) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助  (4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供</p> <p>このような職務を適切に遂行するために必要な知識と倫理を身につけるために、①公認心理師の役割、②公認心理師の法的義務及び倫理、③心理に関する支援を要する者等の安全の確保、④情報の適切な取扱い、⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務、⑥自己課題発見・解決能力、⑦生涯学習への準備、⑧他職種連携及び地域連携について学びます。</p>		
8. 学習目標	<p>①公認心理師の役割について理解し、説明できるようになる。  ②公認心理師の法的義務及び倫理について理解する。  ③心理に関する支援を要する者等の安全確保の方法を身につける。  ④情報の適切な取扱い方について理解する。  ⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務を理解し、説明できるようになる。  ⑥公認心理師として求められる資質、技能、倫理について理解し、自己に求められる課題把握ができるようになる。  ⑦生涯学習への準備の必要性を理解する。  ⑧他職種連携及び地域連携について理解し、説明できるようになる。</p>		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. 授業ノートを用意し、各回で事前学習、事後学習として指定されたことを、毎回必ず行う。  2. 事後学習では、授業時間のふり返りと教科書の該当部分の読み返しの双方を必ず行う。  3. 指示された課題、レポート提出は必ず行う。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 野島一彦・繁枘算男監修『公認心理師の職責 第2版』遠見書房、2023。  【参考書・教材】 必要に応じて、随時提示する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準  ①公認心理師の役割について理解し、説明することができる。  ②公認心理師の法的義務及び倫理について理解している。  ③心理に関する支援を要する者等の安全確保の方法を身につけている。  ④情報の適切な取扱い方について理解している。  ⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務を理解し、説明できる。  ⑥公認心理師として求められる資質、技能、倫理について理解し、自己に求められる課題把握ができる。  ⑦生涯学習への準備の必要性を理解している。  ⑧他職種連携及び地域連携について理解し、説明できる。</p> <p>○評定の方法  学則で定められた単位取得の条件(3/4 以上の出席)を満たしていることを前提として、授業態度と参加姿勢 20%、試験 40%、課題レポート 40%で判断する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>公認心理師として必要不可欠な知識、考え方等を身につける必要があります。しかし、この授業はその始まりに過ぎません。知識として身につけることは最低限のスタートラインであって、この学びを活かし自然に実践している自分になる必要があります。これは生涯を通じて深め続ける必要があるのです。もし公認心理師にならないとしても、この学びは他の職業人として、もちろん心理職以外でも専門職と言われる職業に限定されるわけでもなく、何らかの役割を全うすることに大いに役立つでしょう。そのためには、知的な意欲を持って(わずかでも授業のエッセンスを意図的に使い)授業の内外を過ごすこと(たとえば何らかの業務に関連する報道や、自身や周囲のアルバイト、サークルその他の役割などに置き換えて考える等)がより有効です。自身の周囲や社会の出来事などについて、「職責」「役割」「責任」等に関して興味や問題意識を持って頭を使うことが習慣になれば、自身の生きざまに有意義な知や意欲が蓄積、構築されることとなります。これは実際に意欲と社会的有用性を増加させる、すなわち参画意識や責任ある役割遂行に関する深い喜びの味わい、人生における他者や社会からますます必要とされる歓びと実り大きい好循環となります。</p> <p>公認心理師として「何」をすべきか、してはいけないかということを感じるという姿勢でなく、「なぜ」ということを自分の頭で、また他者の考えにも真摯に向き合い、とことん考えるという以下の姿勢を求めます。</p> <p>(1) きれいにまとめられずとも、まずは自分の頭で、その時点での自身の知を抽出、可能な範囲で整理。  (2) 自分の目、思い込み、思考の枠組み等も含めて、抽出した自身の知に挑むという姿勢で吟味する。  (3) 必要に応じて新たな情報・知識も含めて、上記の姿勢でさらに吟味し、整理、概念化する。</p> <p>これらを授業内での他者との相互作用という点で考えると、以下のように表現することもできます。</p> <p>ア) 自分の考え(意見)を言語化し、伝える。  イ) 心を開いて、頭を使って、他者(教員・他の学生)の話、やり取りに耳を傾ける。質問をする。  (自分の問題としても関与する)  ウ) 他者の話や会話に声を出した形で参加していない時も、頭の中では常に参加する。頭と心を使う。  エ) 必要に応じて、自分の考えの変化を言語化し、伝える。</p>		

13. オフィスアワー		初回の授業で通知する。	
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーションー受講契約と導入	事前学習	公認心理師という職業について、自身および一般的な視点から考え、それぞれを言語化し、記述する。
		事後学習	上記のものが、初回の授業を経てどう変化したのかを言語化して、記述する。
第2回	公認心理師の役割 (教科書：第1章)	事前学習	公認心理師の役割について、自身の考えを言語化して、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、公認心理師の役割に関して自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第3回	公認心理師の法的義務・倫理 (教科書：第2章)	事前学習	公認心理師の法的義務・倫理について、他の職業との比較も含めて自身の考えを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、公認心理師の法的義務・倫理に関して自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第4回	クライアント / 患者らの安全の確保のために (教科書：第3章)	事前学習	クライアント/患者らの安全の確保について、リスクや予防、対処法も踏まえ、自身の考えを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、クライアント/患者らの安全の確保に関して自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第5回	情報の適切な取り扱いについて (教科書：第4章)	事前学習	公認心理師が触れる情報について具体的に考え、その取り扱いについて、自身の考えを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、公認心理師の情報取り扱いに関して自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第6回	保健医療領域での公認心理師の具体的な業務 (教科書：第5章)	事前学習	保健医療領域における公認心理師の具体的な業務を自分なりのイメージ、特徴などを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、この領域において公認心理師の重要性も含め自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第7回	福祉領域での公認心理師の具体的な業務 (教科書：第6章)	事前学習	福祉領域における公認心理師の具体的な業務を自分なりのイメージ、特徴などを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、この領域において公認心理師の重要性も含め自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第8回	教育領域での公認心理師の具体的な業務 (教科書：第7章)	事前学習	教育領域における公認心理師の具体的な業務を自分なりのイメージ、特徴などを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、この領域において公認心理師の重要性も含め自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第9回	司法・犯罪領域での公認心理師の具体的な業務 (教科書：第8章)	事前学習	司法・犯罪領域における公認心理師の具体的な業務を自分なりのイメージ、特徴などを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、この領域において公認心理師の重要性も含め自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第10回	産業・労働領域での公認心理師の具体的な業務 (教科書：第9章)	事前学習	産業・労働領域における公認心理師の具体的な業務を自分なりのイメージ、特徴などを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、この領域において公認心理師の重要性も含め自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第11回	支援者としての自己課題発見・解決能力 (教科書：第10章)	事前学習	支援者としての自己課題発見・解決能力について、他職種との比較も含め、自分なりの考えを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、自身の考えがどう変化したのか言語化、記述するとともに、現時点での自身の課題も記述する。
第12回	生涯学習への準備 (教科書：第11章)	事前学習	生涯学習に関して、その必要性や内容その他について、自身の考えやこれまでの行いを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、自身の考えがどう変化したのか言語化、記述するとともに、新たな具体的取り組みも記述する。
第13回	多職種連携・地域連携 (教科書：第12章)	事前学習	多職種連携・地域連携について、自分なりの考えを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、自身の考えがどう変化したのか言語化し、記述する。
第14回	公認心理師の今後の展開 (教科書：第13章)	事前学習	心理職、公認心理師の今後について、自分なりの考えを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、自身の考えがどう変化したのか言語化し、記述する。
第15回	公認心理師の職責について考える (ふり返りとまとめ)	事前学習	これまでのノートすべてをふり返り、学びや自身の変化などを踏まえて感想を記述する。
		事後学習	授業をふり返り、自身の考えがどう変化したのか、また職責に関する課題意識を言語化し、記述する。
期末試験			